

コツブクラゲ



△
本当に小さなコツ
ブクラゲ

除いて、年中
採集できる。
この個体は今
年7月16日、
田辺湾でのネ

ポリプが不明なままである
が、近縁種が巻き貝などを宿
主とする群性性のポリプなの
で、このような共生種かもし
れない。海外でもクラゲ世代
が知られており、外国では中
国、イギリス、地中海、ブラ
ジルに分布する。

(京都大学准教授)

コツブクラゲは、まさに名
前通りの小粒なクラゲだ。写
真の個体は傘径0・56ミしか
ない。大きくなってもせいぜ
い1ミ程度までにしかならな
い。

日本各地の沿岸に普通に見
られ、田辺湾では11、12月を

率は上がる。

口柄の上にはゼラチン質の口
柄支持柄があるが、口柄支持
柄は短いので、口柄が傘口か
らは突出することはない。口
唇の4隅が伸びて口触手のよ
うになり、獲物を確実に射止
める働きをする。

放射管は4本あり、口柄根
元の胃腔(いこう)で消化し
た餌を体中に送る役割を果た
す。傘の縁には4本の触手が
すわりと伸びている。その根
元にある膨らみは触手瘤(り
ゆう)で眼点はない。

成熟時期に口柄にクラゲ芽
(クローン)を一度にいくつ
も出芽して増殖することだ。
写真では、1個の大きくなっ
たクラゲ芽と、でき始めたば
かりのものの2個が確認でき
る。数日もしないうちに、大



久保田 信

27